

平成26年度 第5次鯖江市総合計画推進にかかる施策方針

第5次鯖江市総合計画の着実な推進を目的として、今年度における総務部の基本方針および重点的に取り組む項目を次のとおり定め、着実に推進します。

平成26年4月30日

総務部長 加藤 泰雄

I 基本方針

- 1 最大のサービス業として、市民の目線、生活者の視点に立った行政施策を立案し、実践できる創造性の豊かな人材の育成を進めます。
- 2 北陸新幹線事業の着実な推進と敦賀開業を見据えた魅力あるまちづくりに取り組みます。
- 3 つつじバス、福井鉄道福武線等の公共交通利用者の利便性向上に取り組みます。
- 4 消費者被害の防止に取り組みます。
- 5 市政への市民参画に新たな層の巻き込みを図ることで、市民主役のまちづくりの更なる拡充と底辺拡大を目指します。
- 6 地域コミュニティとの協働を図ることで、自治組織の強化と市民力の向上に取り組みます。
- 7 女性の社会参加や男性の家事・育児への参加意識の改革、仕事と生活の調和を図るワークライフバランスを推進し、男女共同参画社会の浸透に努めます。
- 8 交通安全の啓発に努め、交通事故ゼロを目指した安全安心なまちづくりに取り組みます。
- 9 地域住民による防災訓練の実施と防災士や地域防災リーダーの養成に努め、災害に強いまちづくりを目指します。
- 10 地域住民の防犯活動や意識の向上を図り、安全安心のまちづくりに努めます。

Ⅱ 重点的に取り組む項目と具体的な目標

1-1. 市民から信頼される職員の育成

多様な市民ニーズや複雑・高度化する行政課題に、積極的かつ的確に対応していくため、「人事管理」「組織運営」「職員研修」「職場環境」を人材育成の4つの取組みを基本柱として、市民とともに考え、未来を描き、熱意を持って改革・改善に取り組む『市民から信頼される職員』を育成します。

特に、「最大のサービス業」であることを自覚し、さまざまな研修機会を通して、前例踏襲や事なかれ主義から脱却し、「市民の目線」「生活者の視点」に立った行政施策を立案し、実践できる創造性の豊かな人材の育成を進めます。

◆ 改定人事評価制度の浸透および効果的運用		
・ 目標設定能力向上のための研修実施		全職員研修1回
・ 業績評価評点数の上昇（全職員平均）	63点/100点	(H25：61.5点/100点)
・ 能力態度評価評点数の上昇（ " ）	33点/40点	(H25：31.8点/40点)
◆ 職場研修の充実・強化		
・ 職場研修指導員研修の実施		1回
・ 新採用職員・【新】中堅職員の民間派遣研修の実施		各1回
・ 【新】女性リーダー養成研修の実施		1回
・ 【新】市民から信頼されるパートナー職員育成研修の実施		1回
◆ 職員の健康管理		
・ 産業医による職場点検・所属長面談の実施		8回
・ 衛生委員会の開催		3回
・ 1人あたりの超過勤務時間の抑制		(前年度に対して ±0%)

1-2. 市役所窓口における接遇の向上

来訪者に親切で丁寧な対応を行い、親近感と安心感を醸成するような市役所窓口を心掛けます。また、来庁された方へ職員対応アンケートを実施し、市民サービスの向上を推進します。

◆ 来訪者アンケート	12回	700人
◆ 来訪者満足度		90%

2. 北陸新幹線の着実な推進

北陸新幹線事業については、沿線町内との設計協議が本格的に開始されます。沿線の要望等に対応するため、市内の「北陸新幹線整備連絡会議」ならびに新たに設置する「北陸新幹線整備推進チーム」で十分協議し、機構、県と住民との関係調整を図ります。

また、新幹線開業を見据えたまちづくりについては、開業時に当市の中核を担う若年層の意見を聴取するため、「新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会」内に新たに若手市民で構成する部会を設置し、当市のまちづくりを検討します。また、市民協働パイロット事業として指定を受けた「えきライブラリーカフェ（仮称）事業」を早期の運用開始に向けて提案者や関係部署との協議を進めます。

◆ 北陸新幹線整備連絡会議の開催	2回
◆ 【新】北陸新幹線整備推進チームの設置	6月
◆ 新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会の開催	2回
◆ 【新】新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会若年層部会の開催	6回
◆ 市民への広報紙等での情報提供	2回
◆ 【新】「えきライブラリーカフェ（仮称）事業」の運用開始	10月

3. 公共交通機関の利用促進

「乗ろう、守ろう、みんなのつつじバス」を合言葉に、利用促進を図るためのアンケート調査や啓発活動を実施し、さらなる利便性の向上を図るとともに、福井鉄道や鯖江公共交通振興会と連携し、より一層の利用促進に努めます。

また、福武線については、新車両導入効果で伸びた利用者数が一過性のものにならないよう、福井鉄道福武線利用促進鯖江市民会議と沿線市および沿線住民で構成する福井鉄道福武線サポート団体等協議会が連携・協働して利用促進の運動に努めます。

◆ つつじバス利用促進	
・ 年間利用者数	20万人
・ 利用促進を図るためのアンケート調査	2回 350人
◆ 福武線利用促進	
・ 鯖江市内駅の利用者数	44万人
・ 野外活動等支援事業の利用者数	9,000人

4. 消費者相談の機能強化

多種多様な消費者トラブルに対応できるよう、研修およびセミナーに積極的に参加し、消費生活相談員のスキル向上を図ります。消費者被害の未然防止、消費者センターの周知のため、市民が多く集まる各種イベント会場において啓発活動に取り組み、消費者意識の普及・向上に努めます。

◆ 消費者生活相談員研修参加	30回
◆ 消費者被害防止啓発	12回

5. 市民主役のまちづくりの底辺拡大

市民主役条例推進委員会や地区区長会・公民館・社会教育施設等と連携しながら、若者・高齢者等、新たな層への市民主役意識の醸成を図ります。

◆ 【新】 地区住民や高齢者を対象とした市民主役の説明会（ワークショップ）	12回
◆ 【新】 鯖江まちづくり創造塾（フューチャーセンター・セッション）の開催	3回
◆ 【新】 鯖江市役所JK課プロジェクトによるまちづくり提案数	5件

6. 自治組織との協働（町内防犯灯LED化の推進）

電気料金や維持費の削減と区長業務の負担軽減を図るため、町内が所有する防犯灯のLED化を推進します。

◆ 【新】 リース方式に参加する町内数	95%
---------------------	-----

7. 男女共同参画社会の実現

女性の社会参加や男性の家事・育児参加意識の改革、ワーク・ライフ・バランスを市民とともに推進します。また、市の審議会等への女性の参画率の向上を図ります。

◆ 市の審議会等への女性の参画率	35%
◆ ワーク・ライフ・バランスをはじめとする男女共同参画に関する学習会の実施	10回 500人
◆ 女性人材リスト登録者数	80人

8. 交通安全の推進

子どもやお年寄りを交通事故から守るため、早朝・薄暮時パトロールや交通安全教室の充実に努め、交通安全への活動を積極的に推進します。

◆ 交通指導員の充足		90%
◆ 交通安全教室の開催	165回	14,000人
◆ 高齢者の免許証自主返納		75人

9-1. 自主防災組織の強化

自分たちの地域は自分たちで守るという意識の向上を図るため、防災士や防災リーダーを育成するとともに、地域住民における防災訓練を実施することにより自主防災組織の強化を図ります。

◆ 自主防災研修会(町内自主防災組織)	1回	参加者数	250人
◆ 【新】防災士資格取得講座		取得者数	40人
◆ 防災リーダー養成講座		修了者数	40人
◆ 出前講座			70回
◆ 町内自主訓練			75町内

9-2. 総合防災訓練の実施

自然災害に対する注意の喚起および防災技術の向上を図るため、市民や防災機関との連携により防災総合訓練や水防訓練を実施します。

◆ 地区協働型防災訓練【平成26年7月予定】		3地区
◆ 水防訓練【平成26年7月予定】		参加者 300人
◆ 職員非常参集訓練		職員参加者 400人
◆ 職員緊急情報伝達訓練【4回】(1時間以内返信率)		85%

9-3. 減災・防災対策の強化および普及啓発

鯖江市地域防災計画の改正に伴い、減災・防災対策の強化を図るとともに、原子力防災ガイドブックを活用し市民に対する原子力防災知識の普及・啓発を行います。また、行政と市民との情報共有を図り、減災・防災意識の向上を図ります。

◆ 【新】原子力防災に関する研修会の開催 (防災リーダー、区長会、消防団等)	参加者数	500人
◆ 【新】ガバメント2.0市民減災・防災モニター (防災リーダー交流会、防災士等)	モニター人数	100人
◆ 新システムによる緊急情報一斉配信メールシステム登録者数		2,000人

10. 防犯隊の強化および防犯活動の充実

地域の防犯隊の積極的な活動を推進するため、防犯隊員の増員を図り、地域住民の防犯意識の高揚に努め、防犯体制の強化を図ります。また、車での青色回転パトロールに加え、新たに徒歩巡回パトロールを実施し、市民の安心安全に努めます。

◆ 防犯隊の隊員数	150人
◆ 【新】徒歩巡回による安全安心パトロールの実施	120回